

放射線科だより



令和6年12月6日
診療放射線科 青山 将吾

《エキノкокクス症》

・ エキノкокクス症とは

エキノкокクス症とは、寄生虫の一種であるエキノкокクスによって人体に引き起こされる感染症であり、包虫症などとも呼ばれています。

エキノкокクスに寄生された動物(キツネやイヌ等)のふんにはエキノкокクスの卵が含まれています。そのため、**野生のキツネやそのふんに直接さわったり、ふんに汚染された山菜や沢水を口にすることで感染することがあります。**

・ 症状

エキノкокクスは主に肝臓に寄生しますが、他の部位にも寄生することがあるため、様々な症状が現れます。症状が重い場合には死に至ることもあります。

○肝臓⇒肝機能障害、黄疸、腹痛、貧血

○肺 ⇒咳、血痰、胸痛、発熱

○脳 ⇒頭痛、意識障害



またエキノкокクスは、寄生後は少しずつ成長し、実際に症状が現れるのは10年以上かかるといわれています。

・ 診断

エキノкокクスの診断には超音波検査やCT検査、血液検査などがあります。CT検査では、肝臓に石灰化(右図○の白い部分)を伴ったのう胞(袋のようなもの、右図○の黒い部分)が見られます。

・ 治療/予防

エキノкокクス症の治療には手術と薬物治療がありますが、現在では根治するためには、手術により病巣を切除する方法しかありません。

また、エキノкокクス症には予防がとても大切です。

○野生のイヌやキツネには触らない

○川などの生水は飲まない

○山菜や野菜はよく洗う

○野山に行ったときや、もし動物に触れた場合は

手洗いをしっかり行う など



検査に関する疑問、質問などございましたらお気軽に検査担当技師までお問い合わせください